

# 社会科の授業づくり

～見通しと振り返り～

岐阜県教育委員会

令和6年3月 更新

# 主体的・対話的で深い学び

## 1 主体的・対話的で深い学び（小学校学習指導要領解説 総則編 P77一部抜粋）

- 「主体的な学び」… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。
- 「対話的な学び」… 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。
- 「深い学び」… 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

## 主体的な学び

見通しをもって粘り強く取り組み、  
自己の学習活動を振り返って、次につなげる。

見通しをもつ

振り返る

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善例

<p>つかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>新たな社会的事象への気づき</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容理解</li> <li>・具体的な読み取り</li> </ul> </li> <li>■ <b>問いの設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問や矛盾の位置付け</li> </ul> </li> </ul>	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>社会的事象に対して問いを設定する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事実の把握や既習との関連化を促す。</li> <li>・疑問や矛盾を出し合ったり、発問をしたりして課題意識を喚起する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>事象や仲間の発言からの考えを伝える。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習や他者の知識に関連付けて事象を捉える姿を価値付ける。</li> <li>・各自の疑問を共有できるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	<p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>事象を既習や経験と関連付ける。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習や生徒同士の発言の共通点や相違点に注目して捉えるよう促す。</li> <li>・自ら疑問を学習課題として設定する。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>社会的事象を既習の知識や概念と関連付け、認識のズレや<b>新たな問い、驚き・感動、社会に見られる課題</b>などから学習課題を設定する。</p>				
<p>深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>予想と見通し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠ある予想</li> <li>・予想を検証する追究の視点</li> </ul> </li> <li>■ <b>個人で追究</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料からの論理的なまとめ</li> <li>・事実の比較・関連・総合</li> </ul> </li> <li>■ <b>仲間と追究</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的に考える</li> <li>・解決の視点や価値の明確化</li> </ul> </li> <li>■ <b>認識の広がりや深まり</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習との関連</li> <li>・新たな視点の資料</li> <li>・新たな視点で考える生徒の位置付け</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>課題解決の見通しをもてるようにする。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠立てた予想を、視点別に整理する。</li> <li>・追究の視点や必要な情報を明らかにしたりする。</li> </ul> </li> <li>■ <b>事実の具体化・関連化を図られるようにする。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実を課題解決につなげている姿を価値付ける。</li> <li>・複数の事実から追究する姿を価値付ける。</li> </ul> </li> <li>■ <b>内容を関連付け、関係性・努力や工夫・願い・価値を見出す。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問い返しや補助発問から発言内容を具体化する。</li> <li>・学習課題について明らかとなった事実を位置付け、さらに問いを深める。</li> </ul> </li> <li>■ <b>内容と学び方を振り返り、社会につないでまとめる。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活や社会生活につなげるよう促す。</li> <li>・学習を振り返り、成果を吟味したり、新たな問いを明確にしたりする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>既習や経験、視点を共有する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容や生活経験を振り返る。</li> </ul> </li> <li>■ <b>調べ方やまとめ方など学び方を示す。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から自己の考えを広げ深める学び方を示す。</li> <li>・自身の認識や経験を踏まえる姿を価値付ける。</li> <li>・実社会で働く人や先哲の言葉などから、願いを捉える活動を位置付ける。</li> <li>・発言に対して、具体性を求めるよう問い返す。</li> </ul> </li> <li>■ <b>意図を明確にして、話合いや討論などの対話を位置付ける。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の生徒と関連付けて考えるよう促す。</li> <li>・多様な視点から社会的事象の特色や意味などを多角的に考えるよう促す。</li> <li>・判断基準を明確化し、相互の理解を踏まえた意思決定を促す。</li> <li>・協働的な学習による認識の深まりを顕在化する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>社会的な見方・考え方を働かせて事象を捉える。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識、概念や技能の活用を価値付ける。</li> <li>・位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互の関連に着目するなど、社会的な見方・考え方を働かせている姿を価値付ける。</li> <li>・社会的事象の関係性を明確にする。</li> </ul> </li> <li>■ <b>知識・認識の広がりや深まりを明確にする。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的・多角的な考察や選択・判断（構想）する場を位置付ける。</li> <li>・学習の深化や転用、社会参画につながる問いを設定する。</li> <li>・知識を相互に関連付けて概念を明らかにする。</li> </ul> </li> <li>■ <b>単元の問いにつなげて考える。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容（具体的知識）と単元で関連する内容（中心概念）の明確化。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対するまとめ</li> <li>・生活や生き方との関連</li> <li>・学び方の振り返りと次時への見通し</li> </ul> </li> </ul>				

# 主体的・対話的で深い学び

導入  
(つかむ)

学習課題

見通しをもつ

展開  
(深める)

課題追究

調べる  
考える  
話し合う

終末  
(まとめる)

振り返る

学びの成果や新たな問いをもつ  
学び方を振り返る

「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養

# 「予想する」 – 学習課題の解決に向けて「見通しをもつ」学び

## 見通しをもつ

予想する



調べ方を  
明確にする

既習事項や生活経験を想起する。

- ・ Aと同じこと（違うこと）は何か。

解決の方向（手段）を考える。

- ・ どんなことがわかるとよいか。
- ・ どんな視点（立場）に注目するか。

解決に必要な情報（事実・資料）を考える。

- ・ どんな資料から調べるとよいか。

社会的な見方・考え方を働かせる。



# 「見通しをもつ」場面におけるポイント

「予想」を確かめるための手立てを明確にする。

- どんな資料から調べ、まとめたらよいか。
- どんな立場から考えたらよいか。
- どんな視点から考えたらよいか。



**課題解決の方向性、追究方法を決める。**

3 本時のねらい

藤原氏が政治の実権を握ることができた理由を追究することを通して、藤原氏が天皇との外戚関係を結ぶ摂関期政治を行うことで権力を手に入れ、多くの荘園によって経済力を得ていたことに気づき、平安時代の政治が天皇と貴族によって行われていたことを理解することができる。

4 本時の展開

学習課題

天皇中心の国づくりをめざしていたのに、どうして貴族の藤原氏が力をもつようになったのか

知識 (○) と技能 (◇)	学 習 活 動	資 料	□評価規準 ■指導・援助
<p>◇「道長の栄華（望月）」を読み取り、藤原氏の力を自慢しているように感じる。</p> <p>◇資料から、天皇中心の国づくりをめざしていたのに、どうして貴族の藤原氏が力をもつようになったのかを追究することができる。</p> <p>○摂関期政治、荘園の意味を理解できる。</p> <p>◇藤原氏の荘園、延久の荘園整理令から、荘園が藤原氏の経済力を支えていたことがわかる。</p> <p>◇摂関期政治について、支配の仕組み、土地制度・租税制度の観点から考えることができる。</p> <p>◇指定語句を使って、本時の学習内容を書きまとめることができる。</p>	<p>1 「道長の栄華」を基に学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇中心の国であるのに、藤原氏が「わが世」と言っている。</li> <li>・藤原氏が自分の力を自慢しているように思う。どうしてそんな力があつたのだろうか。</li> </ul> <p>天皇中心の国づくりをめざしていたのに、どうして貴族の藤原氏が力をもつようになったのか。</p> <p>2 学習課題について、予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原氏は、他の貴族よりもともと天皇に近い存在だった。天皇に任されたのではないか。</li> <li>・自分の娘を天皇の后にし、孫が天皇になると自分が政治を行った。</li> <li>・攝政、関白という地位について、天皇の代わりに政治をしていた。</li> <li>・公卿に占める藤原氏の割合は、高い時点で80%を超えている。</li> <li>・藤原氏は菅原道真を都から追い出した。</li> <li>・頼通や頼朝は、天皇とのつながりがなくなって、攝政になっていない。</li> </ul> <p>権力をにぎる。</p> <p>・天皇中心の政治の仕組みは変化していない。藤原氏に権力が集まっているものの、それは天皇の近くにいることで天皇の力を利用することができるからだ。</p> <p>・租庸調などの税を納めさせる仕組みは変化していないが、多くの荘園が藤原氏のものになっている。藤原氏に集められる荘園が、藤原氏の経済力の基になっているのだ。</p> <p>・藤原氏は、天皇の外戚という地位を失い、荘園を持つことを禁止されたことで力を失っている。このことから、多くの荘園が藤原氏の経済力を支え、それが権力を支えていたとわかる。</p> <p>4 摂関期政治の意味と藤原氏による政治の特色を明らかにして、学習内容をまとめる。</p> <p>藤原氏は、自分の娘を天皇の后にして、孫が天皇となると幼い頃は攝政、成長後は関白となる摂関期政治を行った。これによって天皇中心の政治の中で他の貴族を追い出し、自分だけが天皇に近づいて権力をもつた。また、多くの荘園を持ち、そこから治められる租税によって経済力をもつた。こうしたことが、「この世は自分のもの」という歌につながった。</p>	<p>道長の栄華</p> <p>藤原氏と天皇家のつながり</p> <p>公卿に占める藤原氏の割合</p> <p>藤原氏の荘園</p> <p>菅原道真</p> <p>荘園の寄進</p> <p>延久の荘園整理令</p>	<p>■資料から読み取れることや疑問に思うことを、既習の知識と結び付けて考えるように助言する。</p> <p>■予想のつぶやきを拾い、政治の担い手、支配の仕組み、土地制度・租税制度という観点で追究することを確かめる。</p> <p>■「政治の仕組みが変わっているが、支配の仕組みや土地制度・租税制度はどうか」と問い、律令による天皇中心の中央集権国家づくりが進められていたことと結び付けて考えられるようにする。</p> <p>■「摂関期政治」「荘園」という語句の意味を学習課題への考えとかかわらせながら書きまとめることで、学習内容を振り返り、理解を確かめる。</p> <p>□評価規準 (知識・技能) ノート 摂関期政治の意味を正しく理解し、藤原氏が力をつけた理由を天皇中心国家での天皇との外戚関係と、荘園によって経済力をつけたことであると学習のまとめに書いている。</p>

# 学習課題

## 天皇中心の国づくりをめざしていたのに、どうして貴族の藤原氏が力をもつようになったのか

知識 (○) と技能 (◇)	学習活動	資料	評価基準 ■指導・援助
<p>◇「道長の栄華（望月の歌）」から、藤原道長が自分の力を自慢する様子を読み取ることができる。</p> <p>○摂関政治、荘園の意味を理解できる。</p> <p>◇藤原氏の荘園、延久の荘園整理令から、荘園が藤原氏の経済力を支えていたことがわかる。</p> <p>◇摂関政治について、支配の仕組み、土地制度・租税制度の観点から考えることができる。</p> <p>◇指定語句を使って、本時の学習内容を書きまとめることができる。</p>	<p>1 「道長の栄華」を基に学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇中心の国であるのに、藤原氏が「わが世」と言っている。</li> <li>・藤原氏が自分の力を自慢しているように思う。どうしてそんな</li> </ul> <p>2 学習課題について、予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「摂関政治」が治まった。政治の仕組みが変わったのではないか。</li> <li>・藤原氏が、たくさんのお金や土地を集めているのではないか。</li> <li>・藤原氏は、他の貴族よりもともと天皇に近い存在だった。天皇に任されたのではないか。</li> </ul> <p>3 既習の学習事項や資料を基に調べ、全体で交流して考えを深める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>《摂関政治の担い手》《支配の仕組み》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の娘を天皇の后にし、孫が天皇に</li> <li>・公卿に占める藤原氏の割合は、高い時点で80%を超えている。</li> <li>・藤原氏は菅原道真を都から追い出した。</li> <li>・頼朝や頼朝は、天皇とのつながりがなくなって、摂関になっていない。</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>《土地制度・租税制度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入を見ると、たくさんの田や民から多くの税金が納められている。</li> <li>・全国にたくさんの田や民がある土地が多い。</li> <li>・全国の土地が摂関家のもので、国のものはわずかしかなないとされている。</li> <li>・荘園整理令で荘園が厳しく制限されると、荘園として認められない土地は国のものとなり、藤原氏のものにはならなくなり、力を失っている。</li> </ul> </div> </div> <p>4 摂関政治の意味と藤原氏による政治の特色を明らかにして、学習内容をまとめる。</p> <p>藤原氏は、自分の娘を天皇の后にして、孫が天皇となると幼い頃摂関、成長後は関白となる摂関政治を行った。これによって天皇中心の政治の中で他の貴族を追い出し、自分だけが天皇に近い権力をもった。また、多くの荘園を持ち、そこから治められる租税によって経済力をもっていた。こうしたことが、「この世は自分のもの」という歌につながった。</p>	<p>道長の栄華</p> <p>藤原氏と天皇家のつながり</p> <p>藤原氏が正二位左大臣になったときの年取</p> <p>公卿に占める藤原氏の割合</p> <p>藤原氏の荘園</p> <p>菅原道真</p> <p>荘園の寄進</p> <p>延久の荘園整理令</p>	<p>■資料から読み取れることや疑問に思うことを、既習の知識と結び付けて考えるように助言する。</p> <p>■予想のつづきを拾い、政治の担い手、支配の仕組み、土地制度・租税制度という観点で追究することを確かめる。</p> <p>■「政治の担い手は変化しているが、支配の仕組みや土地制度・租税制度はどうか」と問い、律令による天皇中心の中央集権国家づくりが進められていたことと結び付けて考えられるようにする。</p> <p>■「摂関政治」「荘園」という語句の意味を学習課題への考えとかかわらせながら書きまとめることで、学習内容を振り返り、理解を確かめる。</p> <p>□評価基準 (知識・技能) ノート 摂関政治の意味を正しく理解し、藤原氏が力をつけた理由を天皇中心国家での天皇との外戚関係と、荘園によって経済力をつけたことであると学習のまとめに書いている。</p>

予想

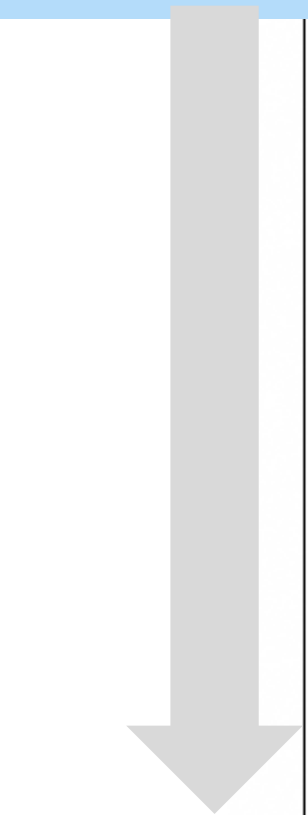
政治の担い手

土地制度

支配の仕組み

税制度

見通しをもつ



# 「振り返る」 – 学習の成果と課題を見つめ、次へつなぐ。

振り返る

学習のまとめ



振り返り

学習課題についての自分の考えを整理する。

- Aであるのは、Bだからだ。理由は、Cだ。
- 今日の授業では、Dであることが分かった。  
それならば、Eについてはどうか。

自己の学びの様子を振り返る。

- 今日の授業では、Aについて取り組むことができた。次回はBに取り組んでみよう。

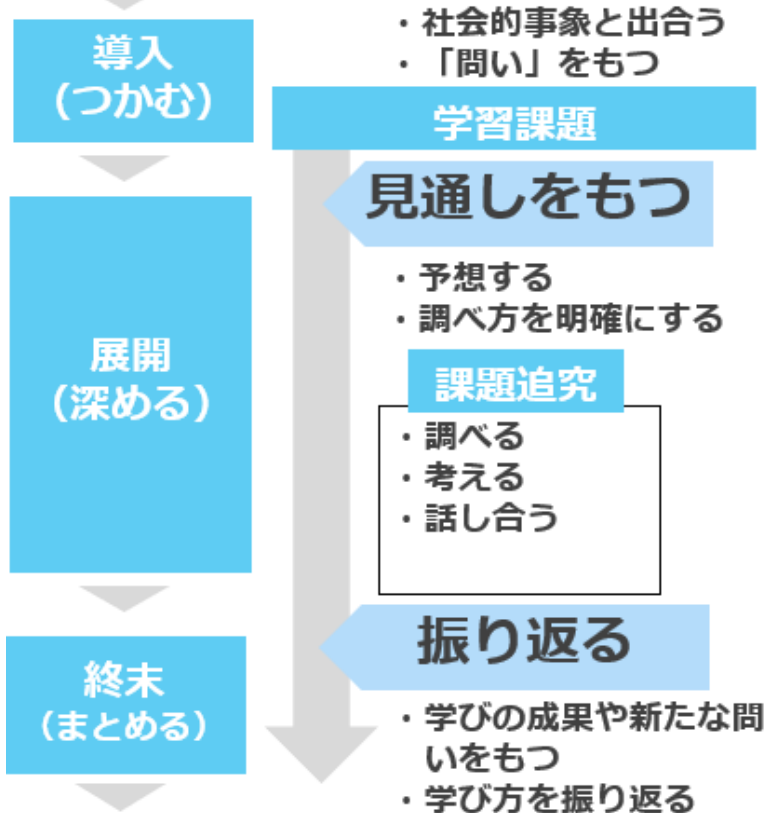
自己の変容を自覚し、学びの成果を次時へつなぐ。



# 「振り返る」場面におけるポイント

①学習課題について、見通し（予想）を基にまとめを書く。

## 主体的・対話的で深い学び

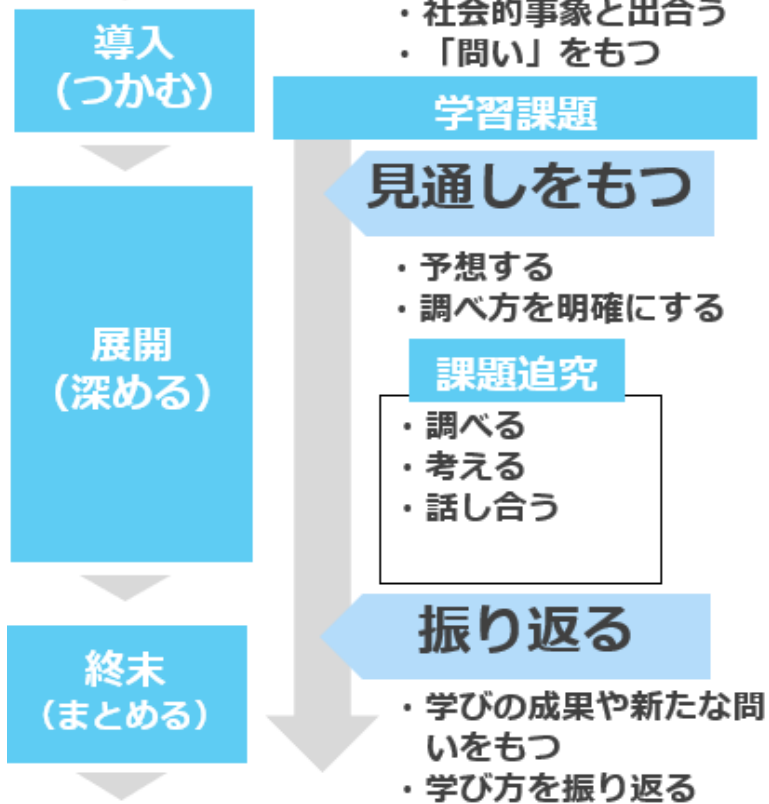


- 学習課題と学習のまとめの整合性を図る。
- 調べて、考えたり、話し合ったりした学習過程の具体的な様子を踏まえる。

# 「振り返る」場面におけるポイント

② 「予想」と「まとめ」の自分の考えを比べ、変容を自覚できるようにする。

## 主体的・対話的で深い学び



- ・ 予想と課題追究の結果（終末の考え）を比べる。

変化の理由について、課題追究の過程から分析する。

- ・ 考えの変容を自覚できるようにする。

# 社会科の授業づくり～見通しと振り返り～

岐阜県教育委員会